

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570809160		
法人名	伊藤電気 株式会社		
事業所名	グループホーム 大曲はなぞの 1号館		
所在地	秋田県大曲市大曲花園町25-28		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念として①家庭的で暖かい雰囲気の中での生活。②生きがいのある生活。③人間としての尊厳が守られる生活。④地域に溶け込んだホーム作りを目指します。1・2号館、それぞれの入居者様のこれからの生活を尊重し、馴染みの家事や得意な事、興味のあることをこれからも継続し、穏やかに過ごされるよう支援させていただいている。コロナ過で入居者様が楽しみにしている、保育園児やボランティアのお茶会などの来訪は無いが、ドライブや散歩で気分転換を図り、行事食や特別メニュー(寿司・弁当)で楽しみを持っていただいている。地域に溶け込めるホーム作りを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年12月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大曲花火大会時は窓から花火が見える閑静な住宅地にホームはある。開設から20年、「地域に溶け込んだホーム作り」を運営理念に、町内会に参加し近隣の方たちと長きにわたり交流してきた。利用者の気持ちに引き合い本人のしたいことを職員皆で実現する取り組みがなされている。思いを口にしてもスルーされれば人は何も言わなくなるが、このホームの利用者は「天気好いから外へ行きたいな」「〇〇食べてな」と言葉にし、思いが叶い充たされる日常を送っている。利用者の何気ない声にも心を配り、利用者の笑顔やよるこんでくれる姿に仕事のやりがいを感じると語る職員。近隣や家族から頂戴した地元の野菜や季節の山菜などふんだんに使い、ホームで調理した温かくて家庭的な食事が提供されている。管理者はじめ職員は、サービスの主体はあくまで利用者本人であり、利用者が人として尊重され生きがいのある生活を送ることを願い、日々真摯な取り組みがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに理念を掲示している。日々の申し送りやサービスの提供場面に理念が反映されるように努めている。今はコロナ禍で月1回のカンファレンスは行われていないが、スタッフがカンファレンスに目を通し印をしている。	理念は玄関、事務室など目に付きやすい場所に掲示され、日頃から理念に添った支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内便りを頂いている。コロナ禍で4年位は交流は無い。	コロナ禍により以前参加していた町内行事は今年も中止になったが、ホーム主催の芋煮会など今後再開する予定。ホーム敬老会には地域の民謡・踊りのボランティアが訪問。近隣とは散歩の道すがら会話したり畑の収穫物や季節の花を頂戴するなど、日頃から付き合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症なんでも相談所を設置し地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の前は町内会長、地域の方、以前入居していた入居者家族様にも参加して頂いていた。会議では率直な意見が聞かれ、それを受けて取り組んでいる。5月から再開している。	運営推進委員とは町内会長をはじめ日頃から付き合いがあり、会議でも率直な意見を頂いている。避難訓練の実施の仕方等参考にさせてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域担当者として、地域包括の職員より定期的に情報交換や相談を頂き、サービスの向上に活かしている。	市役所がホームから徒歩圏内にあり、直接相談に行き助言が得られる関係である。生活保護担当者や地域包括職員とは定期的に連絡を取り、現状報告や情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回内部研修を行い、身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームには「身体的拘束適正化のための指針」があり、年4回の内部研修では管理者が自ら資料を作成し、「利用者の尊厳について」や支援場面での具体的な事例を挙げ、注意喚起している研修内容が確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業制度を利用している方がいる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に入居者様、家族の方と面談し、不安や疑問を解決した上で契約している。改正があれば文章や口頭で説明をして、理解・納得をして頂いている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直し時期に郵送で、意見を頂いている。	毎月ホームから家族へ利用者の日常の様子や健康状態、通院結果などをお知らせする便りを郵送しているが、その返信時や面会時、電話などで家族の意見を伺い、利用者支援やホーム運営に反映させている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	コロナウイルス発生以前は月1回代表者も参加、できる限りは加わって頂き、全職員での会議の場を設け、意見や要望を話し合っていた。現在は感染対策にて報告書での回覧となっており、設備面や備品にて不良あれば都度報告し、電化製品や椅子等の交換に繋がっている。	毎日の申し送り等で、職員から介護の提案や介護用品や設備についての要望等があれば都度検討し、会社に伝え必要に応じ導入している。勤務など職員個々の事情を鑑みて配慮したり、資格取得の為の勤務調整も行ったっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員はグループホーム協議会等に参加して、交流を深めたり、勉強会への参加に努めている。(今現在はコロナ禍のため相互訪問は行っていない。)代表者は一部の会の役員として研修の企画、立案にも参加している。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で可能な限り訴えや要望を聞き、不安解消に努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始までの相談で家族の気持ちを受け止めるようにしている。入居後も落ち着かれるまで連絡を取り合える体制作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で生活を共にしているという関係を目指し実施している。入居者の思い・不安・喜び等を共感し、共に支え合えるような関係をつくっている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いや意向を大切にしながら、家族と繋がっていることを認識できるように支援している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	職員はもちろん、家族の協力にて自宅近くへの外出や外食へ行き、共に過ごす時間が持てるよう支援している。訪問理容の利用もしている。	友人や同級生の面会や電話、手紙や年賀状等、馴染みの人との交流の支援をしている。過去には本人の希望に添い、ホームが親族と遣り取りをして葬儀への参列が叶ったこともある。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や、一人ひとりの思いを把握し、必要時は職員も見守りや仲介することで、孤立しないよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ、居宅のケアマネジャーとの連絡もとり、相談・情報提供し付き合いを続けている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の言動や行動の変化などから、思いや意向を確認するようにしている。把握が困難な場合は、これまでの生活歴を念頭におき、検討・実践している。	利用者の言葉や表情、行動、支援への反応など気付いたことを職員間でこまめに話し合い情報を共有し、思いや意向の把握に努めている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、本人や家族からバックアセスメントや聞き取りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	利用開始時やケアプランの短期目標の期間には家族に意見や感想、どのような支援をしてもらいたいか聞き取りを行った上、利用者本位の視点から得られた気づきや、本人からの意見・要望を反映した介護計画を作成している。	家族の要望は介護計画作成者が電話で家族から聴き取ったり、返信用の封書を送り記入してもらったりしている。ケース担当者はケースカンファレンスで本人要望や支援経過を発表し、評価を記録している。計画作成担当者会議で話し合い、本人・家族の意見・要望を反映した現状に即した介護計画を作成をしている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り時に情報の交換を行い、改善すべき点について話し合いをしている。日々の行動・言動・ケアプランの内容も記録に残すようにしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇作業に取り組んだり、見てもらったりしている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりがこれまでのかかりつけ医で継続できるよう支援している。協力医院からの往診・検診もあり、必要に応じて入居者一人ひとりが相談できる体制ができている。	これまでのかかりつけ医を継続する方がほとんどで、通院付き添いはホーム職員が行っているが、必要に応じ家族が同席している。協力医院とはホーム開設以来長い付き合いで、いつでも相談できる信頼関係を築いている。訪問看護ステーションとは24時間オンコール体制の契約がある。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約をし、月4回の定期訪問と、状態変化時の相談等を24時間体制にて対応できるようにしている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者に情報提供をし、入居者様が不安無く治療を受け、早期退院できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応については事例を経験している。その経験を活かし、入居者様が安心して暮らせるような、重度化や終末期に向けた支援体制を構築している。	入居時重度化や終末期に向けたホームの指針を説明しており、利用者の状況に変化があれば早い段階から主治医、家族、ホームで今後の方針を話し合っている。職員には看取りに関する研修も毎年実施している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や連絡網の整備、勤務表作成時、毎日当番制にて緊急時に出勤できる体制を整えている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練と年1回水害訓練を、コロナ禍前までは近隣住民にも協力をあおいで実施していた。以前、近隣で火事があり、近隣住民や運営推進会議に出席してくれた方も駆けつけてくれた。	消防署員立ち合いの避難訓練(年2回)は、町内の近隣住民の協力も得ながら実施している。また今年8月は指定避難場所の小学校に実際に避難する水害想定での避難訓練も実施し、具体的な課題を検討することができた。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の徹底を図り、入居者様のプライバシー保持に努めている。職員は入居者様一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけ等にも留意している。	管理者から「新任職員にまず学んでもらうのは、利用者一人ひとりとじっくり向き合い、相手を知り自分(新任職員)を知ってもらうこと」と話があった。利用者の人格の尊重やプライバシー保持に関しての教育が徹底されている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様と洋服選びを一緒に行っている。外出時や受診時など事前に知らせておくことで、身だしなみを整えることもできている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立を作り、バランスのとれた食事を提供している。誕生日には食べたいものを聞き、行事に合わせて季節を味わってもらっている。片付けは声かけでやって頂いている。	食事は季節の食材を用い、ホームで調理し提供している。近隣や家族から畑の収穫物や山菜などを頂くこともあり、利用者には味付けや下拵えを手伝ってもらい、利用者が賄いに携わる事を大切にしている。行事食や外出先でおやつを調達したりなど、みんなが食を楽しむことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの状態を把握した水分量を提供している。病気や体重の増減にあわせ、低糖質の食事を提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、一人ひとりの状態や能力に応じた口腔ケアをしている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄チェックで排泄パターンを把握、声かけやトイレ誘導、介助もその方に合わせた支援を行っている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、飲食物の工夫や体操を取り入れている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	生活習慣に合わせてながら週2回の入浴日を設けている。入浴前には血圧や熱を測り体調チェックを行い、健康管理を確認してから入浴を行っている。	脱衣場の室温にも配慮し、浴室の湯温は利用者の好みに合わせた対応を行っている。入浴後の肌の保湿ケアも欠かさず行っている。時間や声かけのタイミングなど個々に合わせ楽しく入浴してもらうよう心がけている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の体調に合わせて、休憩や睡眠ができるように支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬についても理解し、内服後の状態についても記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、入居者様の好みや能力に応じた活動ができるように支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を見て、町内の散歩やドライブ等、戸外に出掛けられるよう支援している。家族からの協力で、外出もできている。	薔薇やラベンダーなど、見頃の時期のドライブ、その日の陽気に誘われての散歩や、一人ひとりの目的に添っておやつ、日用品、衣類等買物に出かけている。コロナ禍でも人混みを避け、植物園のあるホーム近くの農業科学館には気分転換を兼ねよく出かけている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用をしている方はいらっしやらない。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は自室の延長のように安らげ、心地よく過ごせる造りになっている。室内は段差の無い構造、窓は二重サッシで、落ち着いた色彩のカーテンがかけられ不快の音は感じられない。	リビングは明るくすっきりしている。大型のテレビ画面から、利用者の好きな歌やお笑い番組等の録画を流している。季節の壁面装飾は利用者と職員と一緒に制作した貼り絵などの作品である。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチや、各部屋を訪室したりして過ごしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で飾っていたり使っていたものを持って来て、自宅にいた時と同じように、居心地良く暮らせるように工夫をしている。	本人の使い勝手がいいように、寝台や家具の位置を整えている。家族からの贈り物や写真、本人の作品などを飾ってその人らしい、気持ちが和むような部屋の設えになっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手摺を設置しており、安全に生活できるように配慮している。		